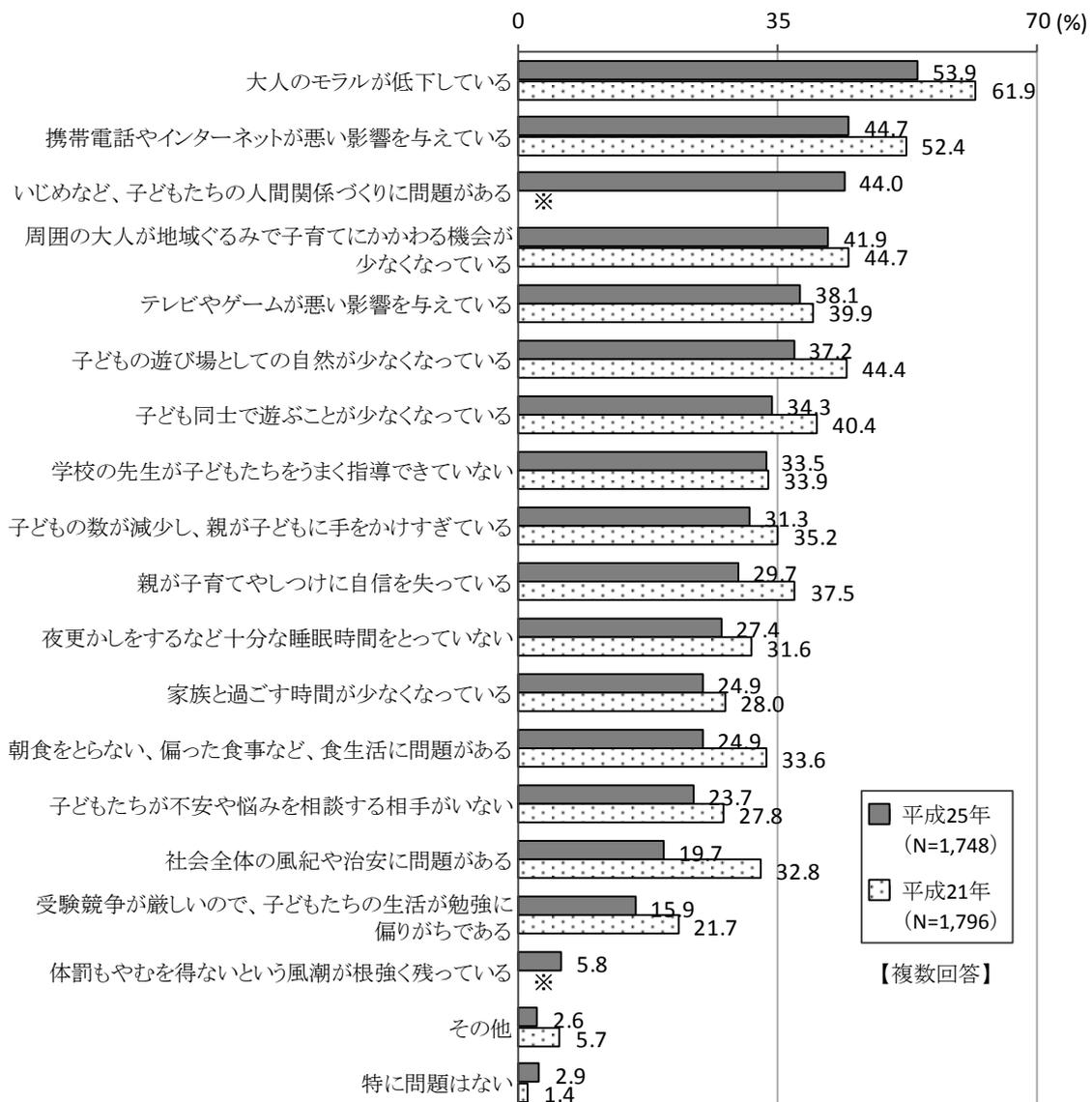


第6章 教育

6-1 子どもをとりまく環境の問題点

「大人のモラルが低下している」「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」が上位2項目。3位には「いじめなど、子どもたちの人間関係づくりに問題がある」が44.0%であがっている。

問22 いまの子どもたちをとりまく環境で、問題になっていると思うのはどのようなことですか。
 (あてはまる番号にいくつでも○印)
 (ここで「子ども」とは、小・中学生をイメージしてお答えください。)



※の項目は平成21年調査にはない。

◆属性別特徴

【性別】「食生活に問題がある」「十分な睡眠時間をとっていない」「いじめなど、人間関係づくりに問題がある」「携帯電話などが悪い影響を与えている」などの割合は男性より女性で高く、男性は「子ども同士で遊ぶことが少なくなった」が女性に比べて高い。



【年齢別】

- ・「大人のモラルが低下している」は40・50歳代でそれぞれ6割を超えて高い値となっている。
- ・「携帯電話などが悪い影響を与えている」「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」は40歳代で最も高い。
- ・「子ども同士で遊ぶことが少なくなっている」や「地域ぐるみで子育てにかかわる機会が少なくなっている」は60歳代で、「子どもの遊び場としての自然が少なくなっている」は30歳代でそれぞれ高くなっている。

【ブロック別】

- ・「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」は、南東部と中央南部で4割と高く、東部Bで約2割と低い。
- ・「十分な睡眠時間をとっていない」は北部Aで35.4%と最も高く、西部Aが17.3%で最も低い。

【子どもの状況別】

- ・「子どもの遊び場としての自然が少なくなっている」や「周囲の大人が地域ぐるみで子育てにかかわる機会が少なくなっている」は小学生や就学前の子どもがいる世帯で高い。
- ・小・中学生がいる世帯では「テレビやゲームが悪い影響を与えている」が高く、「携帯電話などが悪い影響を与えている」や「夜更かしをするなど十分な睡眠時間をとっていない」は、中学生がいる世帯で高くなっている。

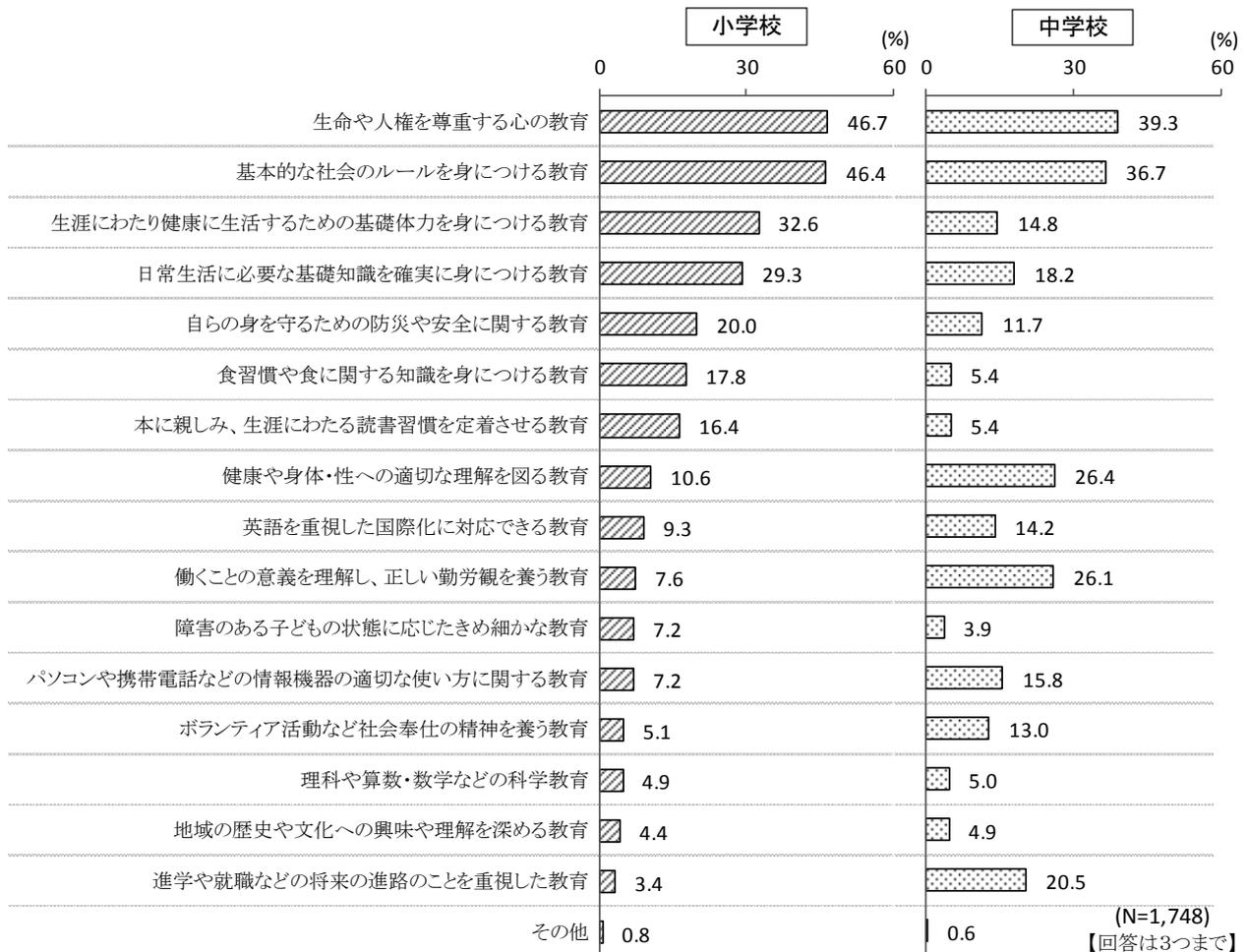
【教育への取り組みの充実度別】充実していると思っている人は「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」や「テレビやゲームが悪い影響を与えている」を多くあげており、一方、充実していないと思っている人は「大人のモラルが低下している」や「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」を多くあげている。

	標本数(票)	子どもをとりまく環境の問題点(%)																				
		周囲の大人が地域ぐるみで子育てにかかわる機会が少なくなっている	親が子育てやしつけに自信を失っている	子どもの遊び場としての自然が少なくなっている	学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない	子どもに手をかけすぎている	子ども同士で遊ぶことが少なくなっている	家族と過ごす時間が少なくなっている	朝食をとらない、偏った食事など、食生活の問題がある	夜更かしをするなど十分な睡眠時間をとっていない	大人のモラルが低下している	大人の生活が勉強に偏りがちである	テレビやゲームが悪い影響を与えている	携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている	社会全体の風紀や治安に問題がある	子どもたちが不安や悩みを相談する相手がいない	潮が根強く残っているという風潮	体罰もやむを得ないという風潮	関係づくりの問題がある	その他	特に問題はない	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	1000 (1,748)	41.9 (732)	29.7 (520)	37.2 (650)	33.5 (585)	31.3 (547)	34.3 (599)	24.9 (435)	24.9 (435)	27.4 (479)	53.9 (942)	15.9 (278)	38.1 (666)	44.7 (781)	19.7 (345)	23.7 (414)	5.8 (102)	44.0 (769)	2.6 (46)	2.9 (51)	2.4 (42)	
性別																						
男性	818	42.2	29.5	38.6	32.6	31.1	36.1	23.1	20.8	23.6	53.9	16.3	37.5	41.9	19.1	22.9	7.2	41.0	2.8	3.7	1.8	
女性	930	41.6	30.0	35.9	34.2	31.5	32.7	26.5	28.5	30.8	53.9	15.6	38.6	47.1	20.3	24.4	4.6	46.7	2.5	2.3	2.9	
年齢別																						
20歳代	225	40.0	29.8	36.9	38.7	30.7	17.8	24.0	29.3	33.8	56.4	12.0	28.9	43.1	20.4	25.8	5.3	48.4	3.1	3.1	1.3	
30歳代	276	42.4	24.3	44.2	34.1	24.3	29.0	27.5	27.5	30.4	57.2	13.8	34.4	40.2	22.8	24.3	7.6	38.8	3.6	3.6	2.2	
40歳代	323	39.3	26.3	40.9	39.9	31.0	30.3	26.6	22.9	32.5	65.9	16.1	40.6	52.6	21.7	25.4	5.9	47.7	2.8	1.5	0.3	
50歳代	315	38.4	30.5	28.3	34.6	31.4	34.9	23.8	25.7	32.7	61.3	16.2	34.6	49.5	20.6	21.6	3.8	48.3	3.5	1.6	2.2	
60歳代	382	47.1	33.5	37.4	31.9	34.3	46.6	24.6	24.3	19.4	46.3	17.0	44.2	44.0	18.6	25.4	6.3	45.0	1.6	3.9	3.4	
70歳以上	227	42.7	33.9	35.7	19.4	35.7	41.0	22.0	19.8	16.3	32.6	19.8	42.7	34.8	13.2	18.5	6.2	33.0	1.3	4.0	5.3	
ブロック別																						
東部A	116	39.7	27.6	30.2	31.9	33.6	29.3	19.0	24.1	25.0	48.3	12.1	34.5	44.0	18.1	19.8	6.0	39.7	2.6	1.7	5.2	
東部B(田主丸)	114	47.4	34.2	31.6	21.9	43.9	36.8	28.1	21.9	25.4	54.4	13.2	36.0	40.4	14.9	18.4	4.4	34.2	1.8	2.6	4.4	
北部A	164	37.8	32.9	36.0	35.4	33.5	36.0	23.2	31.1	35.4	53.0	12.8	37.8	45.7	21.3	20.1	5.5	39.6	1.8	1.8	1.2	
北部B(北野)	120	44.2	31.7	45.0	33.3	34.2	33.3	21.7	19.2	24.2	50.8	16.7	45.8	43.3	23.3	22.5	7.5	48.3	0.8	3.3	2.5	
中央東部	215	39.1	25.1	34.0	35.3	29.3	32.1	24.2	18.1	23.7	55.8	17.2	33.0	43.3	17.7	22.3	5.1	43.3	4.2	4.7	1.4	
南東部	172	44.2	29.1	32.0	40.1	25.0	35.5	28.5	27.3	23.8	55.2	16.9	39.5	39.0	20.3	25.0	7.0	48.3	0.6	0.6	1.2	
中央部	222	38.7	30.2	40.1	32.9	25.7	32.0	23.9	25.7	30.2	53.6	17.1	36.5	47.3	17.6	25.7	4.1	46.4	3.6	1.8	3.2	
中央南部	302	42.4	31.8	43.0	39.1	31.8	30.1	26.5	29.8	32.8	56.6	16.2	37.7	48.7	24.5	26.8	8.6	45.7	2.6	2.0	2.3	
南西部	155	50.3	28.4	40.0	27.1	31.0	41.9	25.8	25.8	27.7	54.8	21.9	41.9	46.5	21.3	27.7	5.2	40.0	4.5	7.1	1.3	
西部A(城島)	75	36.0	26.7	33.3	29.3	37.3	42.7	24.0	24.0	17.3	48.0	14.7	50.7	46.7	18.7	26.7	4.0	50.7	2.7	2.7	4.0	
西部B(三瀬)	93	40.9	28.0	34.4	26.9	29.0	37.6	26.9	18.3	21.5	53.8	10.8	33.3	40.9	11.8	19.4	3.2	47.3	2.2	5.4	2.2	
子どもの状況別																						
世帯の中に就学前の子どもがいる	251	45.4	25.9	47.8	34.7	25.5	33.1	27.9	22.3	29.9	55.0	10.8	39.4	43.8	22.3	24.3	7.6	39.0	3.6	2.8	0.8	
世帯の中に小学生がいる	215	42.3	22.8	51.2	30.2	23.3	37.7	23.3	15.8	26.5	58.6	15.8	46.5	41.9	23.7	19.1	7.4	43.3	4.2	2.8	1.9	
世帯の中に中学生がいる	171	31.6	24.6	39.8	34.5	26.9	29.8	24.6	19.9	35.1	56.1	18.7	48.0	52.0	17.0	19.3	6.4	36.8	2.3	1.8	1.8	
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	176	34.7	25.6	43.2	44.9	34.7	31.8	19.9	25.0	31.8	58.0	17.6	37.5	47.2	14.8	24.4	6.3	41.5	4.0	2.3	0.6	
18歳未満の子どもはいない	1,159	42.2	31.8	32.4	31.8	33.4	34.9	25.2	26.6	26.1	52.7	16.4	35.9	44.0	19.6	24.6	5.5	45.7	2.1	3.4	3.0	
無回答	15	40.0	40.0	60.0	26.7	26.7	53.3	20.0	13.3	13.3	46.7	6.7	33.3	33.3	13.3	13.3	-	33.3	-	-	6.7	
充実度別																						
教育への取り組みの充実している(近い)	89	43.8	36.0	40.4	30.3	31.5	36.0	23.6	14.6	18.0	50.6	22.5	44.9	50.6	18.0	24.7	7.9	41.6	3.4	2.2	2.2	
教育への取り組みの充実している(やや近い)	722	41.8	29.5	35.0	26.3	28.8	34.9	25.1	24.0	26.5	49.7	17.2	38.2	43.6	18.7	23.1	5.5	40.7	1.9	2.8	2.9	
教育への取り組みの充実していない(やや近い)	711	43.5	31.1	38.0	38.1	32.5	34.5	25.2	27.3	30.8	58.5	14.5	38.5	47.0	19.7	24.1	6.2	47.4	1.8	2.4	1.1	
教育への取り組みの充実していない(近い)	165	43.0	24.8	42.4	51.5	33.9	29.7	24.8	27.9	28.5	61.2	12.7	37.6	44.2	29.1	26.1	5.5	44.2	8.5	3.0	2.4	
無回答	61	18.0	21.3	34.4	19.7	39.3	34.4	21.3	14.8	9.8	34.4	16.4	23.0	23.0	9.8	18.0	3.3	45.9	3.3	11.5	11.5	

6-2 小・中学校で特に力を入れてほしいこと

小・中学校ともに上位2項目は変わらないが、第3位には、小学校では「生涯にわたり健康に生活するための基礎体力を身につける教育」32.6%、中学校では「健康や身体・性への適切な理解を図る教育」26.4%、「働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育」が26.1%で高い。

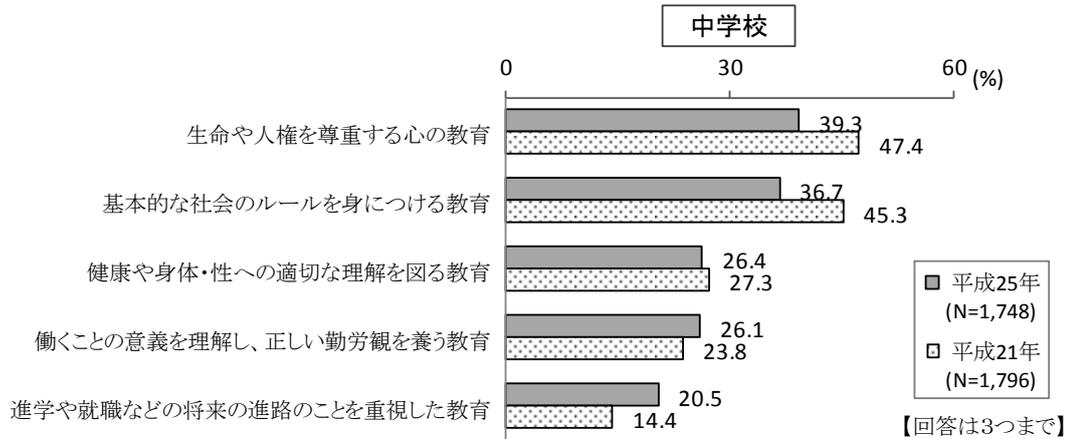
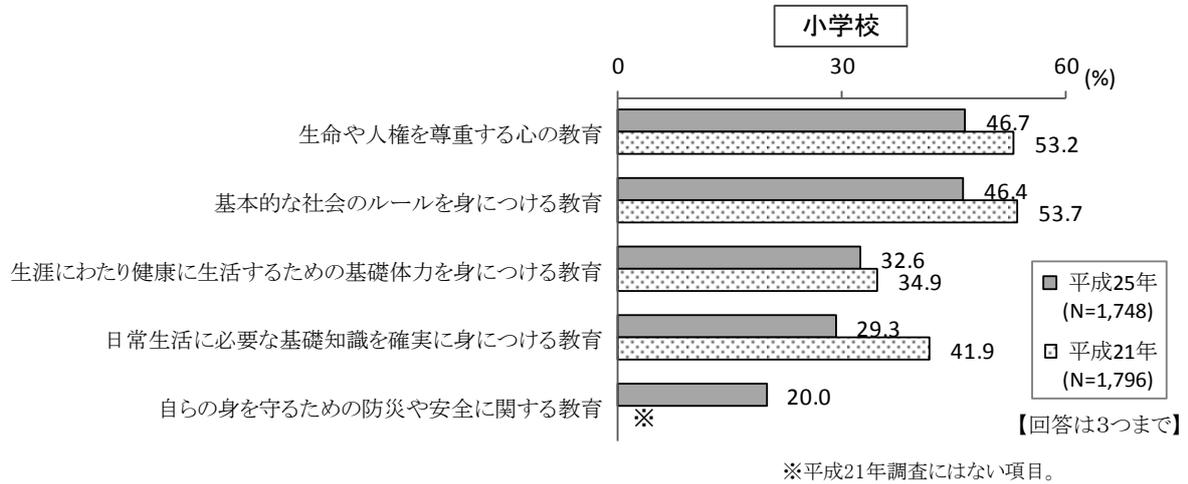
問 23 久留米市の小・中学校において、今後特に力を入れてほしいと思われるものはどれですか。
 (A) 小学校・(B) 中学校のそれぞれについて、次の中からあてはまるものを3つまで
 (2つ以内でも構いません) 選び、番号に○印をつけてください。



● 図 6-1 小・中学校で特に力を入れてほしいこと(前回調査比較)上位5項目

◇小学校については、上位4項目はいずれも前回調査と変わっていない。「日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育」は、前回調査に比べて 12.6 ポイントと減少している。また、5位には新しい選択肢である「自らの身を守るための防災や安全に関する教育」が上がっている。

◇中学校についても、上位5項目はかわっていないが、5位にあがった「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」では前回より 6.1 ポイント上回っている。





◆属性別特徴(中学校)

【性別】上位5項目の中で「基本的な社会のルールを身につける教育」以外は女性の割合が高い。

【年齢別】

- ・「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」や「パソコンや携帯電話などの情報機器の適切な使い方に関する教育」は40歳代で他の年代に比べて高い。
- ・「生命や人権を尊重する教育」は50歳代以上で、「生涯にわたり健康に生活するための基礎体力を身につける教育」は70歳以上の年齢層でそれぞれ割合が高くなっている。
- ・「自らの身を守るための防災や安全に関する教育」は、30歳代で高い。

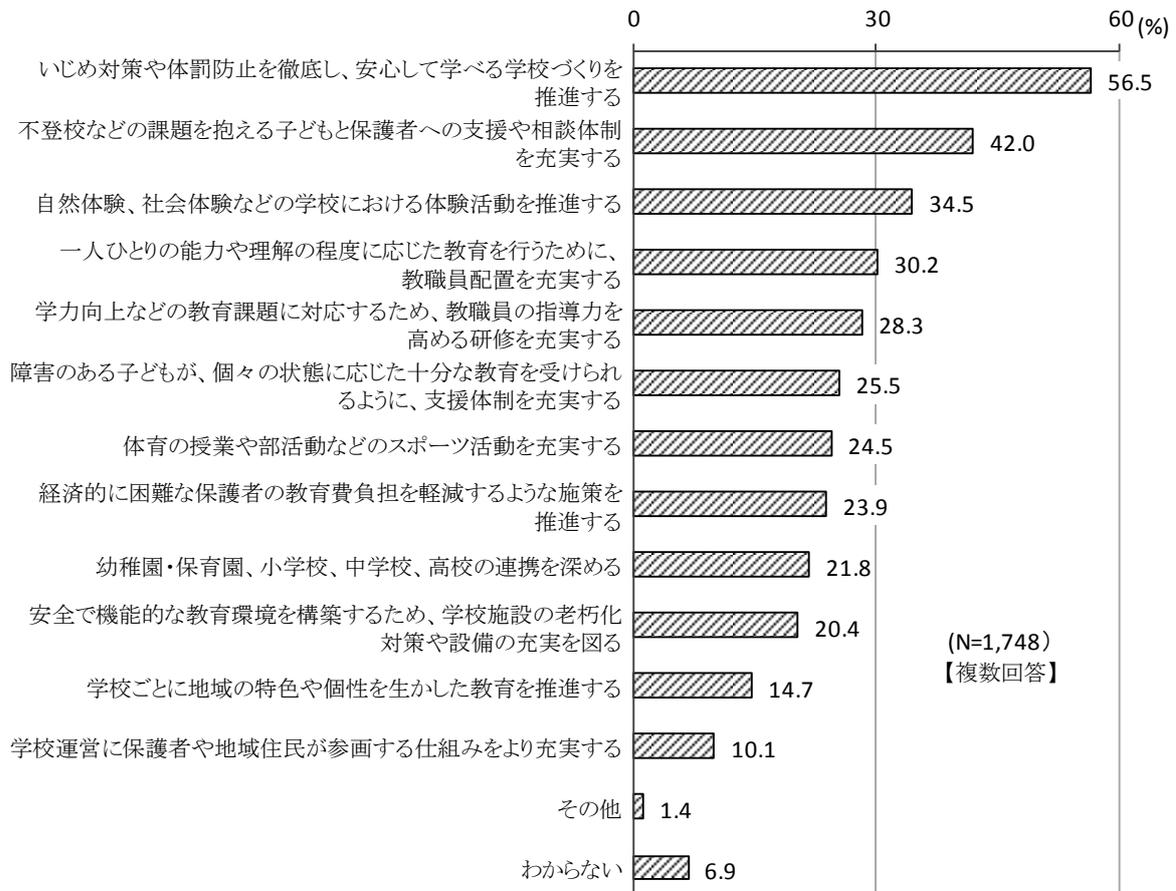
【ブロック別】「健康や身体・性への適切な理解を図る教育」「英語を重視した国際化に対応できる教育」は西部Bで、「基本的なルールを身につける教育」は西部Aで、「生涯にわたり健康に生活するための基礎体力を身につける教育」は北部Aと中央南部でそれぞれ高くなっている。

	標本数(票)	中学校で特に力を入れてほしいこと(%)																	
		め生涯の基礎体力を身につける教育	健康や身体・性への適切な理解を図る教育	食習慣や食に関する知識を身につける教育	生命や人権を尊重する心の教育	基本的な社会のルールを身につける教育	ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う教育	本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を定着させる教育	働くことの意義を理解し、正しい労働を養う教育	日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育	理科や算数・数学などの科学教育	英語を重視した国際化に対応できる教育	地域の歴史や文化への興味や理解を深める教育	障害のある子どもへの状態に応じたきめ細かな教育	パソコンや携帯電話などの情報機器の適切な使い方に関する教育	進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育	自らの身を守るための防災や安全に関する教育	その他	無回答
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,748)	14.8 (258)	26.4 (462)	5.4 (95)	39.3 (687)	36.7 (641)	13.0 (227)	5.4 (95)	26.1 (456)	18.2 (318)	5.0 (87)	14.2 (249)	4.9 (86)	3.9 (69)	15.8 (276)	20.5 (358)	11.7 (204)	0.6 (10)	6.8 (119)
性別																			
男性	818	16.5	25.1	3.7	37.9	37.3	12.7	6.0	25.1	19.4	6.2	13.7	5.3	4.3	14.3	19.4	11.4	0.7	7.6
女性	930	13.2	27.6	7.0	40.5	36.1	13.2	4.9	27.0	17.1	3.9	14.7	4.6	3.7	17.1	21.4	11.9	0.4	6.1
年齢別																			
20歳代	225	14.2	26.2	4.4	34.2	34.7	11.6	5.3	25.8	20.4	6.2	15.6	6.2	3.1	16.4	22.2	12.9	1.3	6.2
30歳代	276	8.7	26.8	6.9	33.7	34.1	13.0	2.9	30.4	16.3	4.3	15.9	6.5	8.0	17.4	24.3	16.7	0.7	5.8
40歳代	323	14.6	26.3	3.7	36.5	43.7	9.3	5.0	27.6	18.3	5.9	18.0	3.7	3.1	22.9	26.6	11.8	0.3	2.5
50歳代	315	15.9	23.8	6.3	44.8	39.0	15.2	6.3	28.3	17.5	4.8	12.1	4.4	3.8	13.3	21.0	9.8	0.6	5.4
60歳代	382	14.7	29.3	5.2	43.2	36.6	14.1	5.5	23.0	18.3	3.7	11.8	5.0	4.2	12.6	13.9	9.9	0.3	9.7
70歳以上	227	21.6	25.1	6.2	41.0	28.6	14.5	7.9	21.1	18.9	5.7	12.8	4.0	0.9	11.9	15.9	9.7	0.4	11.9
ブロック別																			
東部A	116	16.4	25.0	5.2	44.0	36.2	8.6	6.9	31.0	23.3	0.9	12.9	2.6	3.4	11.2	19.0	12.9	0.9	4.3
東部B(田主丸)	114	13.2	27.2	4.4	37.7	28.9	14.9	3.5	20.2	15.8	8.8	10.5	5.3	5.3	18.4	23.7	9.6	-	12.3
北部A	164	20.1	22.6	9.1	36.6	34.8	19.5	6.1	31.7	21.3	2.4	15.2	4.9	3.7	17.7	23.2	7.3	0.6	4.3
北部B(北野)	120	14.2	23.3	5.0	44.2	35.0	7.5	3.3	26.7	22.5	4.2	14.2	5.8	3.3	13.3	21.7	14.2	0.8	9.2
中央東部	215	10.7	26.5	3.7	33.0	40.9	13.5	7.9	28.8	16.7	5.6	11.6	4.2	3.7	18.1	20.0	15.8	0.5	7.9
南東部	172	12.2	27.9	5.8	37.8	40.1	11.0	4.7	25.0	19.8	4.7	19.2	6.4	5.8	15.7	16.9	10.5	0.6	7.0
中央部	222	15.8	26.1	6.3	39.6	37.4	14.9	7.7	18.9	17.1	7.2	10.4	6.3	3.6	13.5	22.5	13.1	-	8.6
中央南部	302	19.5	27.5	6.0	39.1	36.8	11.9	5.0	30.5	19.2	4.6	14.2	3.6	3.6	16.2	21.2	10.3	0.7	3.3
南西部	155	11.6	26.5	5.2	45.8	32.9	14.2	4.5	23.9	14.8	7.7	16.8	5.8	5.8	12.9	20.0	11.6	0.6	5.2
西部A(城島)	75	8.0	25.3	1.3	41.3	44.0	12.0	2.7	20.0	16.0	5.3	14.7	4.0	1.3	20.0	24.0	12.0	-	8.0
西部B(三瀬)	93	12.9	33.3	4.3	38.7	34.4	11.8	3.2	23.7	10.8	1.1	20.4	5.4	2.2	18.3	10.8	10.8	2.2	10.8

6-3 教育行政に期待すること

「いじめ対策や体罰防止など安心して学べる学校づくりの推進」が56.5%で1位。
小学生以上の子どもがいる世帯で「能力や理解の程度に応じた教育を行うための教職員配置」が4割前後で高い。

問 24 久留米市では、教育振興の基本計画である「久留米市教育改革プラン」に基づき、子どもたちの「健やかな体」の育成、「豊かな心」の育成、「確かな学力」の育成をめざして施策を推進しています。あなたは、本市の教育行政に関してどのようなことを期待しますか。
(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】「いじめ対策など、安心して学べる学校づくりの推進」「障害のある子どもに応じた支援体制の充実」「教職員配置の充実」「不登校などの子どもと保護者への支援や相談体制の充実」などは男性より女性で高くなっている。一方「スポーツ活動の充実」は男性でより期待されている。

【年齢別】

- ・「保護者の教育費負担を軽減する施策を推進する」の割合は若い年齢層ほど高くなる傾向にあり、20歳代で33.8%と特に高くなっている。
- ・「学校における体験活動の推進」「障害のある子どもに応じた支援体制の充実」「幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校の連携」は30歳代が高く、「教職員配置の充実」は40歳代が高い。
- ・「いじめ対策など、安心して学べる学校づくりの推進」「不登校などの子どもと保護者への支援や相談体制の充実」は60歳代で多くあげられている。

【ブロック別】

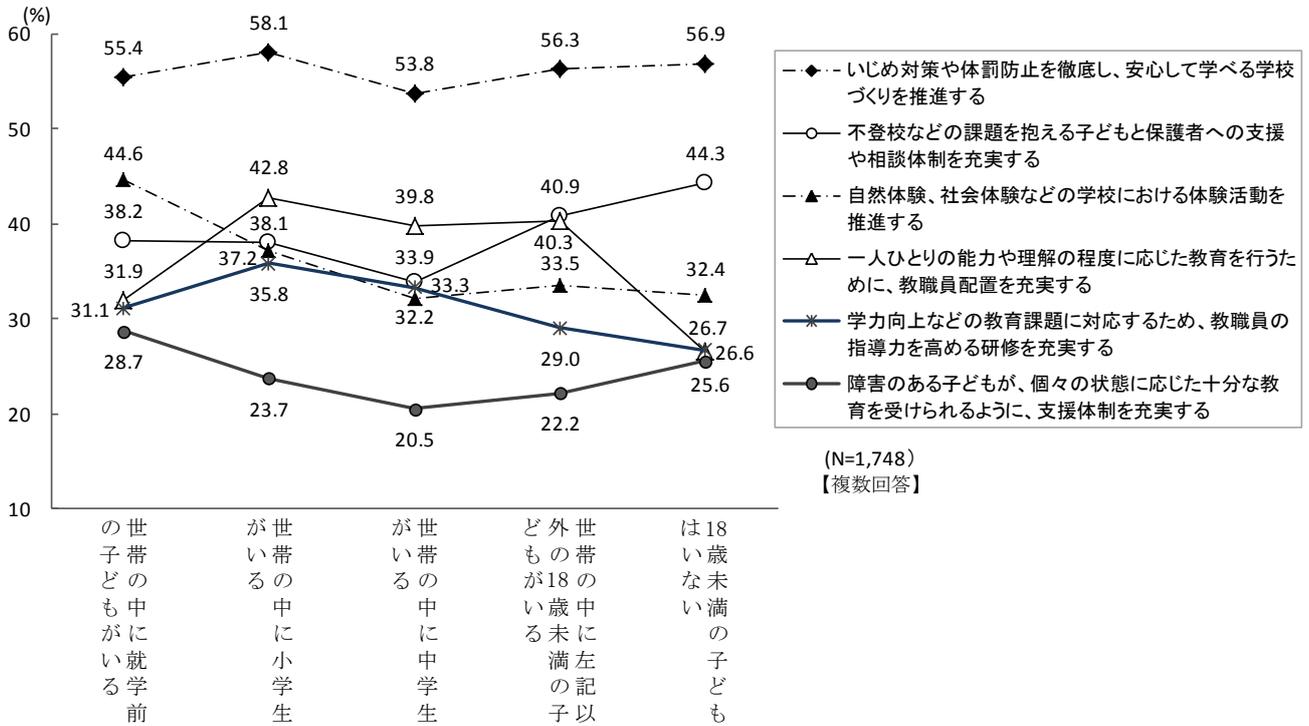
- ・「学校施設の老朽化対策や設備の充実」は北部Bで高い。
- ・「いじめ対策など、安心して学べる学校づくりの推進」は南東部、西部A、南西部で期待が高い。
- ・「学校運営に保護者や地域住民が参画する仕組みの充実」は西部Bと北部Aで高くなっている。

【子どもの状況別】「学校施設の老朽化対策や設備の充実」は就学前、小学生、中学生の子どものいる世帯で高くなっている。また、「教職員の指導力を高める研修の充実」は、小学生、中学生のいる世帯で高くなっている。「幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校の連携」は就学前と小学生の子どものいる世帯で高い。

【教育への取り組みの充実度別】充実していないと思っている人は「教職員配置の充実」や「教職員の指導力を高める研修の充実」を多くあげており、充実していると思っている人では「スポーツ活動の充実」「体験活動の推進」をあげている人が多い。

● 図 6-2 子どもの状況別にみた教育行政に期待すること(上位6項目)

◇「学校における体験活動の推進」「障害のある子どもに応じた支援体制の充実」は就学前の子どものいる世帯で、「教職員配置の充実」は小学生や中学生、それ以外の18歳未満の子どものいる世帯でより期待されている。



考察 — 教育 —

久留米市では平成23年に、平成26年度までの4年間を計画期間とし「未来を担う人間力を身につけた子どもの育成」を教育目標として掲げる「第2期久留米市教育改革プラン」を策定した。「第2期久留米市教育改革プラン」では、「『健やかな体』の育成」、「『豊かな心』の育成」、「『確かな学力』の育成」、「家庭・地域との連携と学校力の向上」の4つを具体的目標とし、学校教育の充実を目指し取り組みを進めている。本調査により、これまでの久留米市の教育行政の評価と今後への期待の一端を探ることができるものと思われる。

●子どもをとりまく環境として「大人のモラルの低下」「携帯電話やインターネットの悪影響」「地域ぐるみで子育てに関わる機会の減少」「テレビやゲームの悪影響」等、平成21年度調査と同様の項目が上位に。市民が問題と考えている内容に大きな変化はみられない。

本調査では、いまの子どもたちをとりまく環境全般について、どのようなことが問題になっていると思うかをたずねている。平成21年調査と比較すると、まず、順位としては「大人のモラルが低下している」「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」「周囲の大人が地域ぐるみで子育てに関わる機会が少なくなっている」「テレビやゲームが悪い影響を与えている」「子どもの遊び場としての自然が少なくなっている」など、前回と同様の項目が上位となっており、これまでの懸念事項が依然として問題点と考えられている。また、今回新しく取り入れた選択肢である「いじめ

めなど、子どもたちの人間関係づくりに問題がある」が44.0%で第3位となっており、近年メディア等でも大きく取り上げられたいじめに対する関心と懸念の大きさをうかがわせる結果となっている。

また、平成21年調査と比較すると、今回新たに設けた選択肢を除いてすべての項目で数値が低下しており、「大人のモラルが低下している」が61.9%から53.9%へ、「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」が52.4%から44.7%へ、「子どもの遊

◆子どもをとりまく環境の問題点(平成21年調査比較)

	標本数(票)	てに いる	周囲の 大人が 地域 ぐるみ で子育 てに関 わる機 会が少 なくな って いる	親が 子育て がやし つけに 自信を 失って いる	が少 なくな って いる	子ど もの遊 び場と しての 自然	ま く指 導でき ていな い	学 校の先 生が子 どもに 対して の関心 が少な い	子ど もの手 がけが 減り、 親が子 どもに 対して の関心 が少な い	く な って いる	子ど も同 士で遊 ぶこと が少な い	な つて いる	家 族と過 ぎる時 間が少 なく	朝 食を とらな い、偏 った食 事	眠 時間 をとつ ていな い	夜更 かしを するな ど十分 な睡眠 がとれ ない	(%)
平成25年調査	1,748	41.9	29.7	37.2	33.5	31.3	34.3	24.9	24.9	27.4	53.9						
平成21年調査	1,796	44.7	37.5	44.4	33.9	35.2	40.4	28.0	33.6	31.6	61.9						
	標本数(票)	ある	受 験競 争が 厳し いの で、 子ど も	と テレビ やゲー ムが 悪い 影響 を	悪 い影 響を 与え てい る	携 帯電 話や イン ター ネッ トが	が 社会 全体 の風 紀や 治安 に問 題	談 すも の相 手が 不安 や悩 みを 相	子 ども たち が不 安や 悩み を相	潮 が根 強く 残つ てい る	体 罰も やむ を得 ない とい う風	間 関係 づく りに 問題 があ る	い じめ など 、子 ども たち の	そ の他	特 に問 題は ない	無 回答	
平成25年調査	1,748	15.9	38.1	44.7	19.7	23.7	5.8	44.0	2.6	2.9	2.4						
平成21年調査	1,796	21.7	39.9	52.4	32.8	27.8	※	※	5.7	1.4	1.1						

※の項目は平成21年調査にはない。

び場としての自然が少なくなっている」が 44.4%から 37.2%などとなっている。「特に問題はない」とする人は 2.9%と少数であるため、ほとんどの人がなんらかの問題を感じてはいるものの、「社会全体の風紀や治安に問題がある」は 10 ポイント以上、「大人のモラルが低下している」「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」「親が子育てやしつけに自信を失っている」「朝食をとらない、偏った食事など、食生活に問題がある」は 8 ポイント程度と大きく減少している。ただ、そのような中で「テレビやゲームが悪い影響を与えている」「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」は平成 21 年調査と数値があまり変化していないことから、行政としてはそれぞれの問題について対処していくことはもちろんだが、この 2 点について、より具体的に保護者から意見を聴取するなど問題の把握に努めることが望まれる。

●**子どもの成長段階に応じて、遊びに関する問題から生活・メディア環境、教育環境へと、関心の重点が変化している。**

また、子どもの状況別では、小学生がいる世帯では「子どもの遊び場としての自然が少なくなっている」「子ども同士で遊ぶことが少なくなっている」「テレビやゲームが悪い影響を与えている」などで数値が高くなっており、子どもの遊ぶ環境や遊び方について問題視する割合が高い。

中学生がいる世帯では、「夜更かしをするなど十分な睡眠時間をとっていない」が高く、また、小学生同様「テレビやゲームが悪い影響を与えている」が高いことに加え、「携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている」が高くなっており、子どもたちの生活時間やメディア利用への懸念が

大きいことがうかがえる。中学生までを除いた 18 歳未満の子どもがいる世帯では、「学校の先生が子どもたちをうまく

◆**子どもの状況別にみた子どもをとりまく環境の問題点**

	全体 N=1,748	就学前の子どもがいる N=251	小学生がいる N=215	中学生がいる N=171	左記以外の18歳未満の子どもがいる N=176	18歳未満の子どもはいない N=1,159
子どもの遊び場としての自然が少なくなっている	37.2	47.8	51.2	39.8	43.2	32.4
学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない	33.5	34.7	30.2	34.5	44.9	31.8
子ども同士で遊ぶことが少なくなっている	34.3	33.1	37.7	29.8	31.8	34.9
夜更かしをするなど十分な睡眠時間をとっていない	27.4	29.9	26.5	35.1	31.8	26.1
テレビやゲームが悪い影響を与えている	38.1	39.4	46.5	48.0	37.5	35.9
携帯電話やインターネットが悪い影響を与えている	44.7	43.8	41.9	52.0	47.2	44.0

指導できていない」が高くなっている。子どもの成長段階に応じ、遊びに関する問題から生活・メディア環境、教育環境へと、関心の重点が変化していることがうかがえる。

また、久留米市のイメージとして、「教育への取り組みが充実していない」と考えている人(第 2 章参照)では、「大人のモラルが低下している」「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」などが特に高く、また「社会全体の風紀や治安に問題がある」は「教育への取り組みが充実している」と考えている層に比べて高くなっていることなど、社会のモラルや教職員の指導力を問題と考える傾向がみられる。特に、「教育への取り組みが充実していない」に考えが「近い」とする人では、「学校の先生が子どもたちをうまく指導できていない」の数値が高い。

●小学校では、人権意識や社会のルール、基礎的な知識や体力など、学力だけでなく道徳性や社会性の育成や基礎的な「生きる力」を身につける教育を、中学校では健康・身体についての知識の習得や、将来の進路を見据えたキャリア教育を望む声が多い

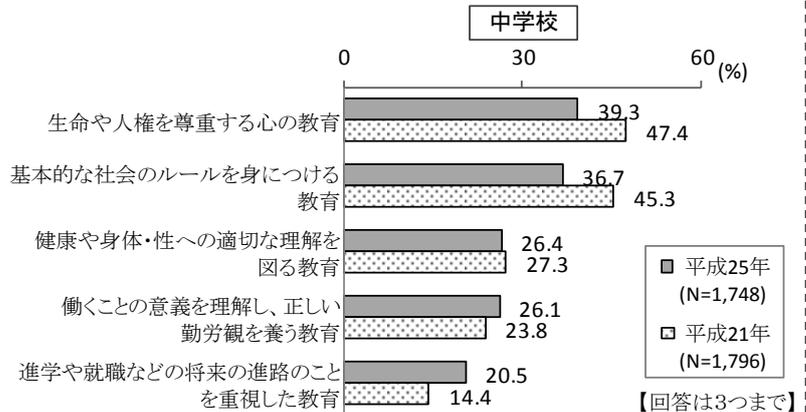
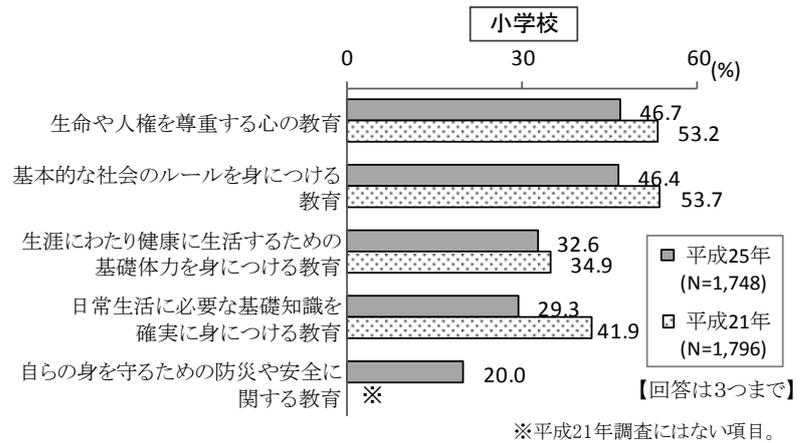
久留米市の小・中学校で今後特に力を入れてほしいこととしては、まず、小学校では「生命や人権を尊重する心の教育」「基本的な社会のルールを身につける教育」「生涯にわたり健康に生活するための基礎体力を身につける教育」「日常生活に必要な基礎知識を確実に身につける教育」が第1位から第4位となっており、本調査であらたに導入した「自らの身を守るための防災や安全に関する教育」が第5位と上位に挙がっている。

一方中学校では、「生命や人権を尊重する心の教育」が第1位、「基本的な社会のルールを身につける教育」が第2位と小学校と同じであるが、「健康や身体・性への適切な理解を図る教育」が第3位、「働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育」が第4位、「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」が第5位となっている。

小学校では人権意識や社会のルール、基礎的な知識や体力を身につける教育など、公教育に対して学力だけではない、道徳性や社会性の育成や基礎的な「生きる力」を身につける、幅広い意味での人間形成を重視した教育を求める人が多いことが分かる。これは、久留米市が「第2期久留米市教育改革プラン」において掲げる『『健やかな体』の育成』『『豊かな心』の育成』『『確かな学力』の育成』という具体的目標とも重なるものであり、「第2期久留米市教育改革プラン」を着実に推進していくことが、市民のニーズに応えることにつながると思われる。

また、中学校では性教育を含めた健康・身体についての知識の習得や、将来の進路を見据えたキャリア教育を望む声が多くなっている。特に、「働くことの意義を理解し、正しい勤労観を養う教育」「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」は平成21年調査より数値が上昇しており、以前よりも市民の要望が高まっているといえるだろう。公教育に求められる役割は広範囲にわたっており、限りある人員と時間とを適切に配分しながら効果的な学校運営を行うことが、今後さらに重要性を増していくであろう。

◆小学校・中学校で特に力を入れてほしいこと(前回調査比較)上位5項目



小学生の子どもの有無別に小学校で力を入れて欲しいことをみると、世帯の中に小学生がいる人では「自らの身を守るための防災や安全に関する教育」が24.7%と高くなっている。東日本大震災や九州北部豪雨災害を経て、災害時の子どもの安全に対する意識が高まっているのではないと思われる。同様に、世帯の中に中学生がいる人が中学校に求めるものをみると、「進学や就職などの将来の進路のことを重視した教育」「英語を重視した国際化に対応できる教育」が高いほか、「パソコンや携帯電話などの情報機器の適切な使い方に関する教育」が26.3%と高くなっている。問22で、世帯の中に中学生がいる人ではインターネットや携帯電話の子どもたちへの悪影響を問題視する人が多かったが、機器やサービスの急速な変化もあつてか、学校での対応が求められているようである。

◆子どもの状況別にみた小学校・中学校で特に力を入れてほしいこと

																						(%)		
		標本数(票)	め生涯にわたる基礎体力を身につける教育	を健康や身体・性への適切な理解を図る教育	つ食べる習慣や食に関する知識を身につける教育	生命や人権を尊重する心の教育	ける基本的な社会のルールを身につける教育	の精神を養う教育	ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う教育	習慣を定着させる教育	本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を定着させる教育	働くことの意味を理解し、正しい労働観を養う教育	実生活に必要な基礎知識を確	日常生活に必要な基礎知識を確	育理科や算数・数学などの科学教育	英語を重視した国際化に対応できる教育	地域の歴史や文化への興味や理解を深める教育	たきめ細かな子どもの状態に応じた適切な使い方に関する教育	障害のある子どもの状態に応じた適切な使い方に関する教育	パソコンや携帯電話などの情報機器の適切な使い方に関する教育	進学や就職などの将来の進路の	全に自らの身を守るための防災や安全に関する教育	その他	無回答
●小学校で特に力を入れてほしいこと																								
全体		1,748	32.6	10.6	17.8	46.7	46.4	5.1	16.4	7.6	29.3	4.9	9.3	4.4	7.2	7.2	3.4	20.0	0.8	4.1				
状況別	世帯の中に小学生がいる	215	34.4	7.4	14.4	49.3	47.0	3.7	16.7	7.9	27.4	8.4	13.0	5.1	5.1	7.9	3.7	24.7	1.4	2.8				
	世帯の中に小学生はいない	1,518	32.3	11.1	18.4	46.1	46.3	5.3	16.4	7.4	29.4	4.4	8.8	4.3	7.5	7.1	3.4	19.3	0.7	4.3				
	無回答	15	33.3	6.7	6.7	66.7	46.7	13.3	13.3	20.0	46.7	-	6.7	-	6.7	-	-	26.7	-	-				
●中学校で特に力を入れてほしいこと																								
全体		1,748	14.8	26.4	5.4	39.3	36.7	13.0	5.4	26.1	18.2	5.0	14.2	4.9	3.9	15.8	20.5	11.7	0.6	6.8				
状況別	世帯の中に中学生がいる	171	11.1	25.7	3.5	36.3	35.7	9.4	6.4	24.0	15.2	7.0	20.5	5.3	1.8	26.3	30.4	11.7	0.6	2.3				
	世帯の中に中学生はいない	1,562	15.0	26.6	5.6	39.6	36.7	13.3	5.4	26.2	18.4	4.8	13.6	4.9	4.2	14.7	19.3	11.7	0.6	7.3				
	無回答	15	26.7	13.3	6.7	46.7	40.0	26.7	-	40.0	26.7	-	6.7	-	-	13.3	26.7	6.7	-	6.7				

●久留米市が掲げる『『健やかな体』の育成、『豊かな心』の育成、『確かな学力』の育成』の目標実現に向けた施策をバランスよく推進することが重要

最後に、久留米市の教育行政に関して期待することをたずねている。「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりを推進する」が56.5%と突出しており、ここでもいじめ・体罰への関心の高さがうかがえる結果となっている。第2位以降は「不登校などの課題を抱える子どもと保護者への支援や相談体制を充実する」「自然体験、社会体験などの学校における体験活動を推進する」「一人ひとりの能力や理解の程度に応じた教育を行うために、教職員配置を充実する」「学力向上などの教育課題に対応するため、教職員の指導力を高める研修を充実する」などが続いている。

子どもの状況別にみると、「いじめ対策や体罰防止など、安心して学べる学校づくりの推進」はどの層でもほぼ同程度の数値となっているが、他の上位項目は子どもの年齢によって差がみられる。例えば、「自然体験、社会体験などの学校における体験活動を推進する」は世帯の中に就学前の子どもがいる人で、「一人ひとりの能力や理解の程度に応じた教育を行うために、教職員配置を充実する」は小学校以上の子どもがいる人で、「学力向上などの教育課題に対応す

るため、教職員の指導力を高める研修を充実する」は小学生の子どもがいる人で高くなっている。これまでもみてきたように、子どもの教育に対する関心やニーズのあり方は子どもの成長とともに移り変わっており、子どもの成長段階に応じた教育課題への対応が求められている。

また、久留米市の教育へのイメージ別にみると、「教育の取り組みが充実していない」に考えが「近い」とする人では、「教職員配置の充実」と「教職員の指導力の向上」が目立って高くなっている。この層の人は問22で教職員の指導力を問題視する割合が高く、教育行政への要望もそれを反映した結果となっている。

一方、久留米市の教育への取り組みが充実していると考える人では、スポーツ活動の充実や体験活動の推進、障害のある子どもへの支援体制の充実など、いわばプラスアルファの教育への要望が高い。先にも述べたように、公教育に求められる役割は多岐にわたっている。市民の学校や教職員への信頼度を高め、教育への取り組みに対する満足度を向上させていくためにも、久留米市が掲げる「『健やかな体』の育成」「『豊かな心』の育成」「『確かな学力』の育成」の目標実現に向けた施策をバランスよく着実に推進することが重要である。